

# 架け橋



JICA 海外協力隊 2021 年 1 次隊

ナミビア 小学校教育

ウサコス エロンゴサ小学校

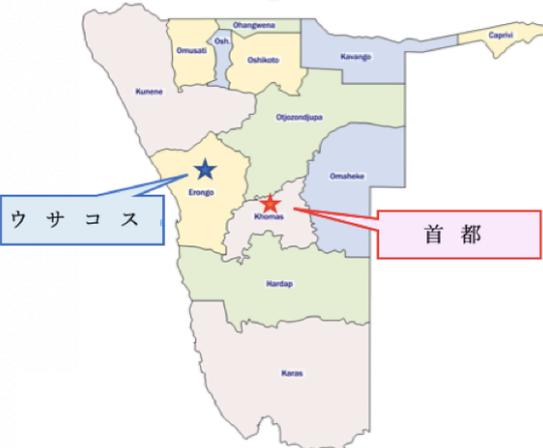
川畑 舞



## 第 2 「ウサコス」号

### 1、任地（ウサコス）

今回は、私の任地ウサコスの様子についてお伝えします。

ウサコス	ヌーペップ山
	
<p>ウサコスは首都から西海岸の方に 220km（車で約 2 時間半）離れた場所にある人口約 3500 人の小さな町です。</p>	<p>町は山に囲まれている為、夏はとても暑く（最高気温 45 度くらい）、冬はとても寒い（最低気温 -3 度くらい）です。</p>
ウサコス駅	ウサコス駅
	
<p>元々、鉱物を運ぶ為の中継地点としてウサコス駅が建てられて、その駅を中心に町がつけられました。</p>	<p>何十年も前にウサコス駅が閉鎖されてから町は衰退し、それに伴う町全体の失業率は 60% を超えています。</p>

<p>カフェで働く人たち</p>	<p>隣町の鉱山会社</p>
	
<p>町の人々は、レストランやカフェ、スーパーマーケット、ガソリンスタンド、交番、学校などで働いています。</p>	<p>隣町（33km,車で約30分）の鉱山会社で働いている人も多く、この付近では主に金の採掘をしています。</p>
<p>水の止まった噴水</p>	<p>地平線に沈む夕日</p>
	
<p>寂れた市民プールや水の止まった噴水、手入れされていない公園などより、以前は活気のある町だったことが窺われます。</p>	<p>町周辺は世界一長い地平線とされているように、一日の終わりには、美しい夕日を見ることができます。</p>

## 2、ウサコスの人々

ナミビア共和国には、多種多様の民族や言語、文化があります。その中で、ウサコスに住んでいる約90%の人は**ダマラ族**です。ダマラ族の人は母語として**ダマラ語**を話し、小学校に入学をしてから公用語として**英語**、必須言語として**アフリカーンス語**を学びます。よって、小学校卒業までにはすでに3つの言語を話すことができます。その他にも**オバンボ族**や**カバンゴ族**、**チョワナ族**の人が住んでいます。オバンボ族の人は母語として**オバンボ語**、カバンゴ族の人は**カ**

バンゴ語、チョワナ族の人はチョワナ語をそれぞれ話します。小学校に入学してからはダマラ族の人と同様に公用語として英語、必須言語としてアフリカーンス語を学びます。それぞれの民族によって言語や伝統、文化が異なるので、ナミビア共和国の人に伝統や文化を尋ねる際は、「ナミビアの」ではなく、「あなたの民族の」伝統や文化を教えてください。」と聞かなければいけないことを学びました。

### 3、ウサコスの町

ウサコスには、タウンとダウンタウン、ロケーションがあります。タウンには、住宅やスーパーマーケット、カフェ、レストラン、薬局、酒屋、家具屋、お肉屋、印刷屋、郵便局など生活に必要なお店があります。タウンから徒歩で15分程歩いた所にあるダウンタウンには、住宅が建てられています。また、タウンから徒歩で30分程歩いた所にあるロケーションには、学校やトタンでできた家が立ち並んでいます。ロケーションには、貧困層の人々が多く住んでおり、夜になるとシャビーンと呼ばれるお酒を飲むお店から爆音の音楽が流れ、時折、そこで酔っ払いが喧嘩をしています。

ウサコスの人たちは、日本人ボランティアを温かく受け入れてくれています。スーパーマーケットの従業員が、「ハロー！マイフレンド！」と話しかけてくれたり、ガソリンスタンドのスタッフが「ハロー！マイ！」と声をかけてくれたり、子供たちが「ミス マイ！」と手を振りながら名前を呼んでくれたりします。地域の人々が日本人の私に対して友好的に接してくれていることが本当に有難いです。

